

2022 年度 学校関係者評価委員会 総括

I. 学校関係者評価委員

委員長： 中谷 守一（社会医療法人景岳会 南大阪病院院長代理）

委員： 渡邊 美津江（社会医療法人景岳会 南大阪病院看護部長）

原田 聡（社会医療法人景岳会 本部部長）

坂口 洋子（社会福祉法人白寿会 在宅部看護サービス事業課 課長）

西森 恭子（社会医療法人景岳会 南大阪病院 看護師長 及び
南大阪看護専門学校 卒業生）

井上 義雄（大阪市西成区地域振興会 南津守連合第十一町会 町会長）

学校側： 小味 智雄（学校長）

藪本 初音（副学校長）

高岡 操（教務主任）

鶴羽 真侑（事務員）

II. 2023 年度学校関係者評価委員会 実施日

【第 13 回】

日時： 2022 年 9 月 27 日（火） 15：00～16：00

場所：南大阪看護専門学校 会議室

方法：対面

欠席者：無し

【第 14 回】

日時： 2023 年 4 月 26 日（水） 15：00～16：00

場所：南大阪看護専門学校 会議室

方法：対面

欠席者：無し

III. 2022 年度 年間目標

1. 看護師国家試験の合格률을 100%にする
2. 退学や休学を低減し、効果的に学べる環境の提供
3. 質の高い受験生の確保

IV. 年間目標の取り組み状況と課題

1. 看護師国家試験の合格률을 100%にする

現状	<ul style="list-style-type: none">・ 110 回（87.5%）、111 回（92.5%）と 2 年連続で全国平均合格率を下回っていたものの、112 回（97.1）は上回り右肩上がりの傾向にある。・ 1,2 年生に対しては、自身の実力を知り学習の習慣化を図る為に、以下の内容の国家試験対策を行っている。 [1 年次] 解剖生理学、病態生理学試験+小テスト 12 回 等
----	---

	<p>[2年次]低学年模擬試験2回+過去問題テスト12回等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3年生に対しては、実習と国家試験勉強を両立させ、合格ラインの実力を獲得する為に、以下の内容の国家試験対策を行っている。 <p>[3年次]全国模試4回+過去問題テスト12回等</p> <p>点数の伸びない学生への学習指導と心理的サポート 補習講義(12月~1月)、個別面接指導</p>
取り組み	<p>合格率100%に向け、今後とも対策を充実させ、学習効果を高めていく必要がある。</p> <p>①3年次のGPAが3.0以下の学生に国家試験不合格が多い傾向にある為、個別に個別性に応じたきめ細かなサポートを行う。</p> <p>②GPAが3.0以上であっても3点台前半の学生から不合格者が散見される為、過去に不合格となった学生の特徴(実習や学校生活・家庭環境・意欲など)に該当する学生には、GPA3.0以下の学生と同様のサポートを行う。</p>
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・履修科目のGPAや学校生活の様子等と合わせて、気になる学生に対する早期介入を行う。 ・成績の変動が大きい学生や国家試験模試の成績が伸び悩んでいる学生へのフォローの充実 ・入学前や入学時の成績との比較は、入試試験科目が統一されてからのデータが集まった段階で分析をする。

2. 退学や休学を低減し、効果的に学べる環境の提供

現状	<p><u>退学</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・年度により変動はあるが、近年は年間1~5名で推移している。 <p><u>休学</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・年度により変動はあるが、やや減少傾向にある。 ・休学者が増えるとその年もしくは1~2年後に遅れて退学者が増える傾向にある。 ・休学の後に復学する学生はその後無事に卒業する割合が低い。 ・過去10年間の休学者の内訳で最も多いのは「単位不足・学力不足」次いで「病気」、「進路検討」となっている。 <p><u>共通</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・進路変更を休学、退学の理由とする学生や就学態度等に問題のある学生には、「自分の意志ではなく、保護者等に言われて仕方なく入学した」等、専修学校で学ぶ自覚に乏しい学生がいる。
取り組み	<p><u>共通</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・退学者を減らす為には、休学者を少なくし休学に至る要因の中で予防策を講じることができるものについては、その方策を検討する。 ・入学後、授業や実習についていけない単位不足・学力不足の学生を少なくするために、質の高い受験生の確保に向けて今後とも努力していく。
課題	<p><u>共通</u></p>

	<ul style="list-style-type: none"> ・休学前、復学前に本人の状況に応じ計画的に個別支援を実施（必要時保護者同伴）。 ・GPA が低く授業についていけない学生、学校生活やクラスで孤立している等、気になる学生への早期介入。 ・入試面接時の適正把握（対人関係、コミュニケーション力、自覚の有無）
--	--

3. 質の高い受験生の確保

現状	<p><u>オープンキャンパス/オンライン座談会</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・来校型のオープンキャンパスでは、コロナ禍の為、引き続き参加人数枠を設定。 ・Zoom ミーティングを利用したオンライン座談会を引き続き実施。 <p><u>学校訪問/進学説明会</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・指定校を中心に前年度入試にて実績のある高校へ訪問。 ・業者より案内がある進学説明会へは日程等による不都合が無い限りはできるだけ参加。 <p><u>広報/SNS</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・高校生を中心とした対象へ、本校の認知やイメージアップを目的に SNS への学校情報の投稿を行う。 <p><u>入学試験</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・全試験で学科試験 2 科目（国語・数学）と面接試験を実施している。
取り組み	<p><u>オープンキャンパス/オンライン座談会</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・来校オープンキャンパスの参加人数枠の増加（40 人→90 人/日） ・毎年アンケート結果で在校生との交流が好評であった為、より在校生と交流ができるように人数配分や時間調整を行った。 ・コロナ禍が収束傾向にある為、オンライン座談会を 2022 年度限りで開催中止とし、今後來校型（オープンキャンパス・学校見学）の内容の充実を図った。 <p><u>学校訪問/進学説明会</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校上層部や法人人材確保室と連携し、複数人で精度の高い学校訪問を行った。 <p><u>広報/SNS</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校認知を目的とし、SNS 広告の掲載を行った。 ・学生等の被写体の表情がマスクをしていても判別できるような写真・動画を掲載した。 <p><u>入学試験</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・2024 年度入学試験（2023 年度実施）より、推薦と社会人入学試験において学科試験を 1 科目（数学）削減した。 ・2024 年度入学試験（2023 年度実施）より、試験日程を全体的に約 1 ヶ月前倒した。
課題	<p><u>オープンキャンパス/オンライン座談会</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・母体病院と連携し、母体病院があるからこそ実現できる内容を計画する。（病院見学や現役看護師による講話等） ・学校の概要を参加者全体に向けしっかりと説明する場を作る。

	<p><u>学校訪問/進学説明会</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・指定校を中心とした各高校の進路実績や進路指導内容を把握する。 ・各高校の卒業生の活躍を伝え、本校の教育体制等をPRする。 <p><u>広報/SNS</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・より高校生目線の SNS を展開する為に、学生に企画や撮影に積極的に協力を呼び掛ける。 ・SNS の更新頻度を上げ、他校に無い企画の投稿をし、差別化を図る。 <p><u>入学試験</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・2024 年度入学試験（2023 年度実施）より学科試験 1 科目削減を行う推薦と社会人入学試験合格者の入学後の成績推移等データを収集し、今後の入学試験のあり方について検討していく。
--	---

V.自己点検・自己評価

「南大阪看護専門学校自己点検の評価結果と今後の課題

評価実施年：2022 年 3 月実施

評価項目	群平均点
1. 教育理念・目標	2.9
<p>➤ 母体病院である南大阪病院の「地域から喜ばれ信頼される病院づくり」の理念に沿って、「知育・徳育・体育」を教育指針に「豊かな人間性を備えた看護職の育成」を目指している。教育目的、6つの教育目標も定め、これらはホームページに掲載し広く学生や保護者が閲覧できるようにするとともに「学生便覧」に明文化し、入学時オリエンテーション等で説明している。</p> <p>【課題・改善方策】</p> <p>(1) アドミッションポリシーを策定することにより本校が求める人材像を明確にし、募集要項やホームページ、オープンキャンパス等で周知していきたい。</p>	
2. 学校運営	2.6
<p>➤ 学校長、副学校長、教務主任、事務職で月 1 回「学校管理者会議」を開催し法人の運営方針等を確認し、学校運営上の課題について検討している。さらに、月 2 回「教務会議」を開催し、各学年の動向や教育（実習含む）の現状を共有し、課題の検討・改善に努めている。</p> <p>➤ 法人理事 2 名、学校長、副学校長、教務主任、事務職による「学校運営会議」は最低年 1 回開催し、学則変更等の規定改訂、予算、教育方針・計画、人事に関することなどの事案を検討している。2022 年度は、学納金の値上げや入試の試験科目・時期変更について検討し改正に至った。</p> <p>➤ 学校事務についてはインフォクリッパーを導入し、学生の学籍情報や成績、出欠等の管理業務の効率化と情報の共有化を図っている。また学生への連絡についてはオクレンジャーというOAを導入し、この2つにより効率的でヒューマンエラーの少ない管理運営に努めている。</p> <p>➤ 人事・給与については、法人が定めた規定により適切に運営されている。</p> <p>【課題・改善方策】</p> <p>(1) 稟議の電子化をという意見があったが、法人全体のシステムにも関連することから今後の課</p>	

<p>題とする。</p> <p>(2) 学校運営に関する各会議は有効に機能している。今後とも限られた時間内で、活発な意見交換ができるよう進行管理していく。</p>	
<p>3. 教育活動</p>	<p>2.6</p>
<p>➤ 本校の6つの教育目標を軸に、ディプロマポリシー（看護師に求められる実践能力と卒業時の到達目標）から各学年がその年度に獲得すべき要素を目標として設定している。その目標に対し学生個人が自分の達成状況を評価し、教員はこのシートを用いて学生と面接し助言・指導を行っている。</p> <p>➤ 小項目「⑤関連分野の企業や関係施設、業界団体との連携によるカリキュラムの見直し」や「⑧職業に関する外部関係者からの評価を取り入れているか」などについては、評価者間での評価点の差が大きく、「設問の意図がわかりにくい」「設問が看護専門学校にはそぐわない」という意見が散見された。</p> <p>➤ 内外の講師（教員）が担当する講義や実習すべてに対し学生が評価し、結果は各講師（教員）へ還元している。その結果は学内の教員については、副学校長と教務主任による年1回の面接において振り返りを行うも、それを踏まえた教授内容や方法の見直し・改善は各教員に一任している。</p> <p>【課題・改善方策】</p> <p>(1) ディプロマポリシーから学年毎に定めた目標の到達度について、学生個人の評価・指導は行っているが、学年全体の結果を評価するまでには至っていない。個と集団双方から評価することで、教育（実習含む）内容を振り返り、必要な場合は見直し改善を図る。</p> <p>(2) 小項目⑤⑧などいくつかの評価項目について、「高校や関係機関など外部の意見を反映させているか」など、看護専門学校の評価指標としてわかりやすい内容を検討する。</p> <p>(3) 授業や実習の評価表については、改善点等をまとめ次の講義・実習指導に活かす。また、関連する分野の講義、実習を担当する教員間でディスカッションし、教員個人のスキル向上を図るとともに、領域の学習効果を高める。まずは、内部の教員で実施していきたい。</p> <p>(3) 教員は進歩する看護技術や看護教育を修得していく必要があるため、研修や学会へ積極的に参加し自己研鑽に努めるとともに、その結果を教員間で共有し資質の向上に努めていく。</p>	
<p>4. 学修成果：この項目の平均点が最も低い。</p>	<p>2.3</p>
<p>➤ 本校の過去3年の新卒者国家試験合格率は、87.5%、92.5%、97.1%と右肩上がりに向上している。合格者の就職率は今年度の1名を除き、過去2年間は100%である。</p> <p>➤ 国家試験対策として、1年次は解剖生理学・病態生理学など苦手科目の集中学習と学年末からの全国模試開始、2年次は全国模試と過去の試験問題実施による学力の確認、3年次は総合力を高めるための模試の複数実施など、学年毎に目的を定め取り組んでいる。試験問題は全国模試だけでなく、苦手分野を克服するため教員の手作り試験も取り入れ、結果に応じた個別指導やグループ学習を実施している。</p> <p>【課題・改善方策】</p> <p>(1) 国家試験合格率の向上については、現在の取組みが効果をあげていると考えられるため継続していく。</p> <p>(2) 「④ 卒業生・在校生の社会的な活動の把握と評価 (2.0)」 「⑤ 卒業後のキャリア形成への効</p>	

果を把握し学校の教育活動の改善に活かしているか(2.1)」の2つが、すべての小項目の中で最も評価が低いことから、何らかの取り組みを検討し教育活動の改善・拡充につなげていく。

5. 学生支援

2.7

- 就職支援に関しては、2年生の年度末に外部民間企業に委託し、近年の就職状況の説明やエントリーシートの書き方、面接における留意点などのガイダンスを実施している。就職セミナーやインターシップの案内については校内に掲示し就職情報を提供している。
- 2年生後期には、教務主任と担任からクラス全員に向け、近年の本校学生の就職活動や採用状況について、就職先の選び方や試験に向けての準備などの説明を行っている。年度末には教務主任による個別面談を実施し、その後学生からの要望があれば教務主任と担任が連携して学生の相談に応じている。
- GPAの低い学生(主に下位1/4以下)や学校生活における言動が気になる学生、健康状態に不安のある学生は退学や休学のリスクが高いため、担当教員を決め定期的に面接を実施し、学習意欲を引き出しつつ悩みの相談に応じている。また、個別に課題を提供するなど効率的な学習方法を共に考えるなどのサポートも実施している。
- いじめ等に対するアンケートも実施しており、学生は担任、教務主任、副学校長など相談したい教員を選択できる体制を整えている。相談があった場合には、学校と法人双方で問題の解決に努めている。
- 経済面に関して本校は「高等教育の修学支援新制度」対象校となっている。また、併せて「本校の独自奨学金制度」「日本学生支援機構奨学金制度」も利用することができ、ホームページやオープンキャンパス、募集要項で広く周知し、入学後は丁寧な説明をおこない希望者の相談に応じている。
- 学生の健康面については年2回健康診断を実施するとともに、必要に応じ教員が相談に応じ本人の希望があれば母体病院を紹介している。また、実家を離れて一人暮らしをしている学生については特に日々の健康状態を注視し、早期対応・予防に努めている。
- 本校にクラブ活動等はないが、「1年生歓迎会」「3学年交流会」「運動会」「謝恩会(3年生への)」「学年毎の教育キャンプ」など、授業や実習で多忙な学生生活のアクセントになり楽しめる学校行事を設け、クラス間、学年間の親睦を図っている。
- 保護者への面談は成績や就学態度が気になる学生、休学・復学の前後等に必要に応じて実施している。休学や復学時の意思確認、復帰時の留意点等については引き続き本人・保護者・学校間で確認していく。また、2年生の戴帽式には保護者も出席することから、本格的に実習が始まる前に今後の留意点や規則正しい日常生活の重要性等について説明している。

【課題・改善方策】

- (1) 退学者や休学者を減らすため、今後とも気になる学生への早期介入、個々の問題に応じたきめ細かな相談を実施していく。また、退学者の中には「自分の意志ではなく、他の人から強く勧められてやむなく入学を決めた」という学生が少なくないため、特に推薦入学者に対しては高校の進路担当教員への説明を強化する。
- (2) 戴帽式に保護者が出席する機会を活用し、必要な学生及び希望者への「保護者個別相談」の実施を検討する。

(3) 採用試験が年々早くなる傾向がみられるため、就職ガイダンスの時期を早める等、就職活動に対応できるサポート体制を整えていく。

6. 教育環境

2.7

- 玄関はオートロック、夜間は機械警備となっており防犯体制は整っている。
- 電子教科書の導入、Wi-Fi 環境は全教室に整備している。今後とも教育効果の高い ICT 機器があれば導入を検討する。
- 月 1 回母体病院の臨床指導者と教員による「臨床指導者会議」を開催し、より良い実習に向けて事前打合せや学生支援に係る情報共有、終了後の評価等について意見交換を行っている。また、その他の実習施設とも実習前オリエンテーション、実習後の評価時に意見を聴取し課題の改善に努めている。
- 新カリキュラムとして再編された「地域・在宅看護」では、地域で生活する人々の健康を考える内容の充実が求められている。学生の学びを深めるため、新たに地域のボランティアによって実施されている高齢者支援活動に学生を参加させるなど、今後ともカリキュラムの目的に応じ、また、学生の到達度を評価しながら、社会資源の活用や実習施設の確保に努める。
- COVID-19 については感染予防のための消毒薬の設置、ソーシャルディスタンスの徹底、その他の予防行動の徹底を図るよう指導してきた。5 類移行後も教職員及び学生に対しては、感染が重症化しやすいハイリスク者と接する機会が多く、自らが感染源となる危険性があることを念頭に入れ、責任ある行動をとるよう指導している。
- 防災訓練については、COVID-19 感染拡大中は休止していたが、それ以外の年度は法人と協働で訓練を実施している。また、本校は津波避難所に指定されていることから、3 年生の災害看護の授業の中で、区役所の防災担当者による「この地域の具体的な防災上の課題や対応について」の講義を依頼している。その他避難所が開設された場合のシュミレーショングループワークも講義に取り入れる等の備えを行っている。また、災害時の学生・教職員の安否確認は「オクレンジャー」により確認するシステムを導入している。
- 防犯については、1 年生対象に毎年地域の警察・機動隊の協力を得て訓練を実施している。

【課題・改善方策】

- (1) 「臨床指導者会議」は活発な意見交換ができるよう、運営について病院看護部と調整を図っていく。
- (2) 学生のディプロマポリシーを把握し、実習施設や実習内容についても評価し、必要であれば新たな実習施設を開拓し内容を検討するなど環境を整えていく。
- (3) 防災・防犯訓練については継続し、減災に努める。

7. 学生の受入れ等：この項目の平均点が最も高い。

3.3

- 指定校への学校訪問を実施し、本校の特徴・国家試験合格率・就職状況・指定校から入学した学生の現況を伝えている。また府下の高校で開催される学校説明会にはできるだけ参加し、その他にも SNS や進学の情報誌に本校の情報を掲載するなど、周知に努めている。
- オープンキャンパスについては参加高校と人数・内容、その年の受験者数を評価するとともに、参加した学生、高校の進路担当教員、入学した学生や教職員の意見をもとにより魅力的な内容となるようブラッシュアップを図ってきた。また、入学試験の時期についても検討し、2024 年度入学生の試験については例年より約 1 か月早く実施することとした。

- 学納金については、昨今の物価上昇、特に光熱水費の上昇に伴い、また ICT 化に対応した学習環境整備を目的に、2024 年度から年間 100,000 円値上げすることとした。

【課題・改善方策】

- (1) 入学生の確保に向け、引き続き学校訪問を中心とした働きかけを行っていく。
- (2) オープンキャンパスは実績をもとに見直しを図り、本校の特色が伝わる内容を検討していく
- (3) 受験者数について数年間は、見直した試験実施時期・試験科目の影響を評価する。

8. 財務

2.9

- 約 2 か月に 1 度法人が作成する収支表と、毎月法人経理課が作成する総勘定元帳を確認しつつ、法人、学校の規定に基づき適切な予算執行に努めている。また大阪府から受給している養成所補助金についても、適正な予算執行を行っている。

【課題・改善方策】

- (1) 無駄な支出をおさえ、教育効果の高い分野に経費を執行していく。
- (2) 次年度から学費を値上げすることとなったが、それに見合った教育環境を整えていく。

9. 法令順守

2.7

- 学校運営は「看護師等養成所の運営に関する指導ガイドライン」に則り、また、「学則」等の規定に基づき運営している。
- 個人情報の保護については、学生には入学時のオリエンテーションや実習前のオリエンテーションで説明し誓約書を提出させている。
- 看護教育や実践活動において ICT 化が進み、生活の中で SNS やツイッターを活用している学生が多い。このような社会情勢を受け、新カリキュラムの中で情報科学の単位を増やし、情報リテラシーに関する講義を拡充した。

【課題・改善方策】

- (1) 学校運営は法令を遵守し適切に運営している。
- (2) 教職員の個人情報保護や情報リテラシーに関する研修は、法人の研修において確実に受講していくこととする。

10. 社会貢献

2.5

- 学校行事として、年 1 回全学年で地域の清掃ボランティアを行っている。また、以前から地域の運動会やハロウィンなどの行事への誘いがあり学生は参加してきた。COVID-19 感染拡大中は行事自体が休止していたが今年から再開することとなり、地域の運動会へ有志の学生が参加した。あらゆる世代の方との交流を通じて豊かな人間性を育む貴重な機会でもあり、今後とも学生へ参加を呼びかけていく。
- 高校等から、看護師教育に関する講演依頼等があれば積極的に協力していきたい。

【課題・改善方策】

- (1) ボランティア活動に興味を持つ学生はやや減少傾向にあるが、地域活動の趣旨を伝え引き続き参加を呼びかけていく。

〔学校評価委員会における自己点検・自己評価結果に対する意見〕

1. 自己評価が厳しすぎるのではないか。看護職は往々にして自己評価が厳しい。
2. 各項目の適切度の基準が曖昧で、個人によってその基準が異なることが評価点数の格差につながっているのではないか。
3. 平均が「3」以下は「ほぼ適切」でないということになる。特に教育に関する項目については、早急に対応していく必要がある。
4. 実施できていないと評価している項目でも、新しい教員や事務職など学校が取り組んでいることを知らない教職員もいるのではないか。
5. 2・4の状況があるなら、基準を明確にする必要がある。また、学校として実施していることを教職員に説明する必要もある。
6. この評価は年1回と決まっているのか？ 基準や学校が実施していることを評価者に説明し、評価基準もできるだけ一致させ、再度評価してみてはどうか。ガイドラインでは年1回程度と示されてる。

〔学校評価委員会の意見を踏まえた総合的な評価及び今後の取り組み〕

全体的に3点（ほぼ適切）に満たない自己採点結果となった。課題については「現行の対応を継続し評価するもの」「改善に向け取り組みを進めていくもの」に2分し取り組んでいく。

■2023年度優先的に改善に取り組むもの

1. 「1 教育理念・目標」の課題（1）
2. 「3 教育活動」の課題（1）（2）
3. 「4 学修成果」の課題（2）

※その他の課題については、可能なものから順次すすめていく。

自己点検・自己評価表(南大阪看護専門学校)

高 : 低 n=13人

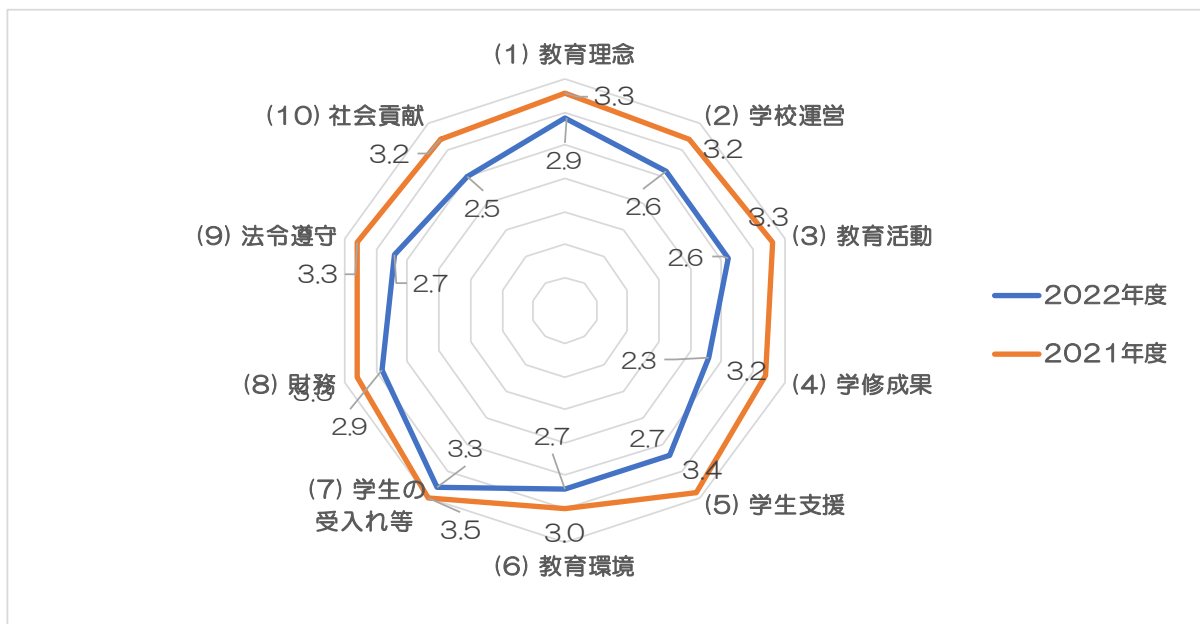
評価項目(評価点 4:適切 3:ほぼ適切 2:やや不適切 1:不適切)		平均	群平均	意見
教育理念・目標	① 学校の理念・目的・育成人材像は定められているか	3.3	2.9	・④は保護者には周知されていないと思う。 ・アドミッションポリシーを制定しホームページ、募集要項等で公表すべき。
	② 学校における職業教育の特色は何か	3.1		
	③ 社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	2.8		
	④ 理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが生徒・保護者等に周知されているか	2.3		
	⑤ 各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	2.8		
学校運営	① 目的等に沿った運営方針が策定されているか	2.9	2.6	・法人と調整が必要だが議案書等のシステムを電子化し短期間で効率よく稟議できるシステムの構築が必要
	② 運営方針に沿った事業計画が策定されているか	2.8		
	③ 運営組織や意志決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	2.5		
	④ 人事、給与に関する制度は整備されているか	2.3		
	⑤ 教務・財務等の組織整備など意識決定システムは整備されているか	2.8		
	⑥ 業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	2.5		
	⑦ 教育活動に関する情報公開が適切になされているか	2.5		
	⑧ 情報システム化等による業務の効率化が図られているか	2.4		
教育活動	① 教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	2.7	2.6	・近年のSNS上での様々な問題への対策として、ネットリテラシーの講座を開くべき ・⑦の授業評価はもう少ししっかりと実施すべき
	② 教育理念・育成人材像や業界のニーズを踏まえて教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は図られているか	3.2		
	③ 学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	3		
	④ キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	2.6		
	⑤ 関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	2.1		
	⑥ 関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技・実習等)が体系的に位置づけられているか	2.3		
	⑦ 授業評価の実施・評価体制はあるか	2.8		
	⑧ 職業に関する外部関係者からの評価を取り入れているか	2.2		
	⑨ 成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	3.1		
	⑩ 資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	2.8		
	⑪ 人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	2.2		
	⑫ 関連分野における業界等との連携において優れた教員(本務・兼務等)の提供先を確保するなどマネジメントが行われているか	3		
	⑬ 関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	2.2		
	⑭ 職員の能力開発のための研修等が行われているか 等	2.3		
学修成果	① 就職率の向上が図られているか	2.6	2.3	
	② 資格取率の向上が図られているか	2.4		
	③ 退学率の低減が図られているか	2.5		
	④ 卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	2		
	⑤ 卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	2.1		
学生支援	① 進路・就職に関する支援体制は整備されているか	2.8	2.7	
	② 学生相談に関する体制は整備されているか	2.7		
	③ 学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか	3.2		
	④ 学生の健康管理を担う組織体制はあるか	2.9		
	⑤ 課外活動に対する支援体制は整備されているか	2.8		
	⑥ 学生の生活環境への支援は行われているか	2.8		
	⑦ 保護者と適切に連携しているか	2.8		
	⑧ 卒業生への支援体制はあるか	2.3		
	⑨ 社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	2.5		
	⑩ 高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	2.3		
教育環境	① 施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	2.6	2.7	
	② 学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	2.5		
	③ 防災に対する体制は整備されているか	3		
受入れ等の	① 学生募集活動は、適正に行われているか	3.2	3.3	
	② 学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	3.2		
	③ 学納金は妥当なものとなっているか	3.4		
財務	① 中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	2.7	2.9	
	② 予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	2.8		
	③ 財務について会計監査が適正に行われているか	3		
	④ 財務情報公開の体制整備はできているか	2.9		
法令遵守	① 法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	2.9	2.7	
	② 個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	2.9		
	③ 自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	2.4		
	④ 自己評価結果を公開しているか	2.5		
社会貢献	① 学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	2.7	2.5	
	② 学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	2.7		
	③ 地域に対する公開講座・教育訓練(公共職業訓練等を含む)の受託等を積極的に実施しているか	2.2		
平均		2.7	2.7	

自己点検・自己評価の結果と課題について

表1 自己評価平均点の比較

項目	(1) 教育理念	(2) 学校運営	(3) 教育活動	(4) 学修成果	(5) 学生支援	(6) 教育環境	(7) 学生の 受入れ等	(8) 財務	(9) 法令遵守	(10) 社会貢献
2022年度	2.9	2.6	2.6	2.3	2.7	2.7	3.3	2.9	2.7	2.5
2021年度	3.3	3.2	3.3	3.2	3.4	3.0	3.5	3.3	3.3	3.2

図1 自己評価平均点のレーダーチャート



VI.その他

- ・学校関係者評価委員会の開催時期について、2023年度より10月と4月とする。
(10月に前期の学校状況とオープンキャンパス結果を、4月に年間の総評と国家試験結果を報告する為)

VII. 2023年度 年間目標

1. 看護師国家試験の合格率を100%にする
2. 授業評価を有効に活用し、授業内容や実習指導にフィードバックすることで教育効果を高める
3. 質の高い受験生の確保